

まえがき

この度、「公衆衛生学－社会・環境と健康－」を新たに刊行しました。この書は、2004年3月に発刊された、当時、実践女子大学教授の竹田美文先生（元国立感染研究所所長）編による「わかりやすい公衆衛生学」の後継として、書名、装丁を刷新し、一部執筆陣も交替しました。これまで前書を教科書として採用頂いた各方面に、引き続き、ご活用頂ければ幸いです。章立ては、最新の管理栄養士国家試験出題基準に準拠しており、他の構成は前書を引き継いでおります。

前書「わかりやすい公衆衛生学」は2022年3月の第6版（4刷）まで、12回の改訂を重ねました。この類の教科書としては異例の頻度と思いますが、公衆衛生学は、社会の変化に適応していかなければならない領域であるという、執筆陣の共通理解があればこそ実践できたと考えております。この方針は、本書でも引き継いでいく所存です。

前書が発刊された2004年は、ちょうど、日本の総人口が増加から減少に転じた年で、その後の2011年の東日本大震災、2019年末に始まる新型コロナウイルス感染症といった災禍は、公衆衛生対策にも大きな変化をもたらしてきました。現在は、健康日本21も最終評価の節目を迎え、低出生率、超高齢社会における保健医療福祉制度の対応など、変化が続いていくと予想され、同様に改訂を続けることが本書の使命と考えております。

この書で学ぶ学生諸君が、将来、様々な形で人々の健康に関わる立場に就き、良質なサービスを提供できる人材となることを願うものであります。人々の健康を実現するには、多くの専門職が連携するいわゆる多職種連携が重要であり、学んだ内容が多職種間の相互理解の役に立てば幸いです。

本書をご覧いただき、至らぬ点や理解しにくい点などに気付かれましましたら、お手数とは存じますが、是非、ご指摘下さいますようお願い申し上げます。

2023年3月

安達修一